

平成 25 年度第 2 回加古川市子ども・子育て会議 議事要旨

- 日時 平成 25 年 12 月 12 日（木） 13 時 30 分から 15 時 45 分
- 場所 加古川市役所本館 4 階 242 会議室
- 出席者（委員） 石堂委員、大辻委員、小田委員、河口委員、木村委員、小泉委員、杉山委員
藤井委員、藤池委員、藤木委員、松浦委員、三柴委員、名生委員
（松尾委員【欠席】）
- 会議次第
1. 開会
 2. 議事
 - （1）アンケート調査の実施について
 - （2）現行制度における教育・保育サービス及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況について
 - ①幼稚園について
 - ②保育所について
 - ③延長保育事業について
 - ④放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）について
 - ⑤子育て短期支援事業（子育て家庭ショートステイ事業）について
 - ⑥乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）について
 - ⑦養育支援訪問事業（育児支援家庭訪問事業）について
 - ⑧地域子育て支援拠点事業（子育てプラザ）について
 - ⑨一時預かり事業について
 - ⑩病児・病後児保育事業について
 - ⑪子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター事業）について
 - ⑫妊婦健診事業（妊婦健康診査費助成事業）について
 - （3）その他
 3. 閉会
- 配布資料
- 資料 1：平成 25 年度第 2 回加古川市子ども・子育て会議座席図
- 資料 2：加古川市アンケート調査票
- 資料 3：現行制度における教育・保育サービス及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況

議事要旨

1. 開会	開会の宣言
2. 議事	（1）アンケート調査の実施について アンケート調査の実施について事務局より説明を行った。
事務局	【アンケート調査の実施について説明】

	<p>(2) 現行制度における教育・保育サービス及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況について</p> <p>現行制度における教育・保育サービス及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況について事務局より説明を行った。</p> <p>①幼稚園について</p>
事務局	【幼稚園について説明】
委員	幼稚園の就園率は、近年どのように推移しているか。
事務局	5歳児の就園率は、平成23年度34%、平成24年度34%。平成25年度34.8%となっており、ほぼ横ばいである。
委員	公立幼稚園の4歳児は1園1学級、35人定員、定員をオーバーすれば抽選し、落選すれば二次募集で他の園に申し込みができるということである。しかしながら、P.6の「平成25年度4歳児・5歳児園児数と就園率」の表において、例えば平岡町などは、4園あるが、ほとんど一時募集において定員を上回っている状況である。また園によって、公立幼稚園での抽選倍率は0.3倍～1.6倍と偏りがある。この配分をどうするか。
事務局	両荘幼稚園などは、一次募集の申込実績10人に対し、園児数12名となっており、一次募集で第一希望の他の幼稚園に申込み、落選した園児を受け入れている状況がうかがえる。しかしながら、倍率が高い地域については、一次募集で抽選という対応の中で検討いただいている状況である。
委員	公立の幼稚園については、入園資格の中で「市内に居住するものとする」とした上で、「ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りではない」との例外規定がある。こういった状況か。
事務局	現状において、この理由で入園している子どもはいない。
委員	P.10の「私立幼稚園学級数及び園児数」の表で、在園児の計804人のうち、市内在住659人となっている。全体の18%は市外からの子

事務局	<p>どもを受け入れているということで、どのような形になっているか。</p> <p>近隣他市（高砂市、明石市、播磨町、稲見町）などからスクールバスを利用しての登園がある。</p>
事務局 委員	<p>②保育園について</p> <p>【保育園について説明】</p> <p>保育所一覧に認可外保育所が含まれていない。今後「量の見込み」を推計していくにあたり、認可外保育所の定員数、利用者数等のデータも含め、幼稚園、保育所、在宅すべての子どもの人数のデータの把握は不可欠ではないか。</p>
事務局	<p>つい先日、兵庫県が県内の認可外の保育施設についての利用状況を調査し、一覧として結果をとりまとめたものが届いた。児童数毎の利用時間等も記載されており、その時間数から「保育を必要とする」児童数も推計できると思う。今後詳細な分析を行い、保育ニーズの需要供給にかかる資料としてご提示したいと考えている。</p>
事務局 委員	<p>③延長保育事業について</p> <p>【延長保育事業について説明】</p> <p>延長保育について認可外保育所の記載がないが、市は認可外保育所に關しては把握していないということか。</p>
事務局	<p>認可外保育所は兵庫県の所管となっており、運営状況等についての一覧が県のホームページに掲載されている。市としては、それ以上の情報は持っておらず、認可外保育所各園の延長保育の実施状況についても把握していない。</p>
事務局 委員	<p>④放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）について</p> <p>【放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）についてについて説明】</p> <p>入所の要件として、「保護者の就労等」とあるが、現在、保護者が働</p>

事務局	<p>いている子どもは全員入所できている状態であるか。</p> <p>まず、「放課後」ということであるので、保護者が午前中のみ就労しているような場合は受け入れしていない。</p>
委員	<p>対象年齢は3年生まで、開所時間は午後6時30分までということだが、4年生以降、また、保護者の終業が6時30分を回る場合などはどうに対応するのか。何か他の制度はあるか。</p>
事務局	<p>各家庭において、祖父母の預かりや、ファミリーサポートセンターの利用で対応いただいていると認識している。</p>
委員	<p>対象児童の年齢に関して、従来、おおむね10歳未満であったものが、今回の子ども・子育て関連法による児童福祉法改正により、「小学校に就学している児童」に拡大している。高学年の児童の放課後児童クラブの利用についても、今後、調査等でニーズがあることが確認できれば、検討していくことになると思う。</p>
委員	<p>放課後児童クラブの待機児童はいるか？</p>
事務局	<p>平成25年12月現在で、9名いる。</p>
委員	<p>待機児童数というのは、把握が難しいものであり、「サービスを提供する」ということになれば潜在的なニーズを掘り起こし、増えていくということもある。アンケートには祖父母の存在等も記載項目としてあがっており、それも含めてアンケートの集計結果をもって対応願いたい。</p>
事務局	<p>⑤子育て短期支援事業（子育て家庭ショートステイ事業）について</p>
事務局	<p>【子育て短期支援事業（子育て家庭ショートステイ事業）について説明】</p>
委員	<p>（質問なし）</p>
事務局	<p>⑥乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）について</p>
事務局	<p>【乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）について説明】</p>

委員	「看護師等が訪問」となっているが、「等」には他にどんなものがあるか。
事務局	保健師、助産師を含んだ表現である。
	⑦養育支援訪問事業（育児支援家庭訪問事業）について
事務局	【養育支援訪問事業（育児支援家庭訪問事業）について説明】
委員	（質問なし）
	⑧地域子育て支援拠点事業（子育てプラザ）について
事務局	【地域子育て支援拠点事業（子育てプラザ）について説明】
委員	（質問なし）
	⑨一時預かり事業について
事務局	【一時預かり事業について説明】
委員	現在、一時預かり事業を利用しようとして直接保育所に連絡しても、現実問題として、受け入れできる定員をオーバーしており、利用できないこともある。そういった現状を市としてはどのくらい把握しているか。
事務局	市としては、各園の利用定員は把握している。 通常保育プラス一時預かりという枠組みの中で、児童福祉法に定められた保育施設の最低基準（子どもの人数によって定められた面積や配置すべき保育士数など）を満たさなければならず、通常保育を優先して児童を受け入れるよう対応しているため、一時預かりの受け入れができない状況もあるとは聞いている。 しかしながら、例えば、今日どこの園であれば利用できるのかというような個別の運用状況を市が把握するようなことはしていない。
委員	費用負担区分について、どの区分にどれくらいの施設の利用があるか。

事務局	<p>平成 24 年度の実績で回答する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 人以上 300 人未満 5 園 ・ 300 人以上 900 人未満 6 園 ・ 900 人以上 1,500 人未満 3 園 ・ 1,500 人以上 2,100 人未満 1 園 <p>計 15 園であり、今年度から実施園が 1 園増えたため、現在は 16 園での実施となっている。</p>
委員	<p>一時預かりについて各園からの実施件数の報告はあるか。</p>
事務局	<p>月単位で報告があり、その報告件数に基づいて補助金を支出する。</p>
委員	<p>(保育現場としては) 利用定員の弾力運用(定員をオーバーしても定員の 125% までであれば受け入れ可能)を適用して、定員上は受け入れ可能であっても、実際の問題として、低年齢の中途入園児や一時預かり児については、子ども 1 人につき保育士 1 人での対応が求められるため、結果的に受け入れできない場合がある。</p>
事務局	<p>⑩病児・病後児保育事業について</p> <p>【病児・病後児保育事業について説明】</p>
委員	<p>体調不良児対応型について、現実的にはままあることと思うが、加古川市においては病後児対応型しか実施していないというのは「看護師を常時 2 名以上を配置」という要件を満たさないために、「体調不良児対応型」という事業として合致しないということか。</p>
事務局	<p>体調不良児対応型は、以前は加古川市でも実施していたが、兵庫県の補助金の対象から外れたため、加古川市としては、平成 22 年度以降、補助金対象である病後児対応型にシフトして実施している経緯がある。</p> <p>⑪子育て援助活動支援事業(ファミリーサポートセンター事業)について</p>
事務局	<p>【子育て援助活動支援事業(ファミリーサポートセンター事業)について説明】</p>

委員	(質問なし)
事務局	⑫妊婦健診事業（妊婦健康診査費助成事業）について 【妊婦健診事業（妊婦健康診査費助成事業）について説明】
委員	(質問なし)
委員	(3) その他 全体をとおして、まず、保育所についてであるが、P.15の「児童数の推移」の表に、年度当初と期末における入所、待機児童数の記載があるが、やはり期末になると待機児童数は増加する傾向が顕著である。これを解消することは可能かどうか。 また、P.35のこんにちは赤ちゃん事業の資料の中に平成24年度の地区別の出生数が載っているが、加古川町、平岡町、野口町などは出生数が多いなどばらつきがある。このばらつきは、何年か後にその方々が市内の教育・保育施設を利用するようになった際、幼稚園の1クラスあたりの定員が35人と定められた枠の中で考えれば、結局、幼稚園の申込み率のばらつきと一致してくる。将来を予測して、対象児童が多く見込まれる時期はあらかじめ2クラス分設置できるように準備しておくなどの対応ができるのか。それとも、あくまでも1園35人の枠は動かさず、定員をオーバーした場合は、私立幼稚園等で対応いただくような形で「量の見込み」をたてていくのか。現段階で考えている方策があれば教えて欲しい。
事務局	4歳児保育の受け入れについて、第一希望に添えていない現状は確かにある。幼稚園での4歳児保育については、平成24年度にやっと市内20園、全園への導入が達成できたところであり、受け入れにあたっては、教室、幼児教育士の確保などが課題であり、現状の幼稚園の空き教室の状況などを勘案して検討していかなければならない。 また、将来的には子どもの数の減少が見込まれる中で、私立幼稚園との調整ということも検討する必要がある。 現在、実施しているニーズ調査の結果もふまえて検討していく。
委員	幼稚園については、原則、徒歩での通園ということになっており、二次募集の園といっても難しい部分がある。地域性を考えざるを得ない事業

<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>であり、アンケートの結果をみて、今後検討すべき方針に加えていかなければいけない問題だと思う。</p> <p>市立幼稚園・私立幼稚園が市内のどのような場所に位置しているか、どの地域が充足しており、どの地域が供給量不足であるのか、市内のどの地域にどんな対策が必要であるのか今後の検討の参考になるような資料を提示いただけないか。</p> <p>今回の計画の策定にあたっては、提供体制を確定するための教育・保育提供区域の設定が前提になる。区域設定の検討にあたり、区域毎の児童数、教育・保育施設の設置状況、利用状況に関する資料については次回の会議以降、ご提示させていただきたいと考えている。</p> <p>現在、「量」の充足の議論がすすめられている。もちろん「量」についても大切な問題であるが、公立、私立の幼稚園、保育園、子育て支援の関係者が集まるこの会議の中で、加古川市における教育・保育の「質」を高めていける議論も大切であると思う。</p>
<p>3. 閉会</p>	<p>閉会の宣言</p>